

# 随泉寺寺報

平成17年(2005年) 2月号 第414号

TEL 082-892-0217 <http://tetunari@msl.megaegg.ne.jp>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

仏婦講座

講師 教雲寺住職 藤井聡之師

講題 「生き方宣言・・・私達がお浄土

から問われていること。」

『仏法には明日と申すことあるまじく候ふ。仏法  
のことはいそげいそげと仰せられ候ふなり。』

「～明日があるさ、明日がある、若い僕には、夢がある、いつか  
きつと、いつかきつと、わかってくれるだろう、明日がある、明  
日がある、明日があるさ」 この歌は昔、坂本九さんが歌ってい  
た懐かしい曲です。私も若い時はイヤなことや、つらいことがあったと  
き「まあいいや、明日がある」と、できるだけ今日のことは忘れて、明日  
のことを考えたものです。へたをすると私たちは、今日しなければなら  
ないことを明日に回しているような生き方をしているのではないでしょ  
うか。明日に夢や希望をもって生きることも大切です。しかし、仏法を聴かせて  
いただきますと、「今を大切に生きる」ということを教えられます。蓮如上  
人は、「仏法には明日と申すことあるまじく候ふ」とおっしゃいました。



## 2月の法座予定

- 2月 7日.....ダーナの実践
- 2月14日昼席午後1時より.....仏婦講座
- 2月14日夜席午後7時半より.....仏婦講座 出張法座 荒野集会所
- 2月15日朝席午前10時より.....仏婦講座 会員追悼法要 おとき
- 2月15日昼席午後1時より.....仏婦講座
- 2月26日午前9時より.....土曜学校(子ども会)

## ☆御正忌報恩講

報恩講は宗祖親鸞聖人のご苦勞をしのび、そのご苦勞を通じて、  
阿弥陀如来のお救いをいただくことを、あらためて心に深く味わ  
わせていただく法要です。私たちにとってもっとも大切なご法縁  
といえます。親鸞聖人のご命日は旧暦11月28日です。本願寺で  
は、これを太陽暦にあらためて1月16日とし、1月9日から16日  
まで御正忌報恩講をお勤めいたしました。御正忌報恩講初日(1



月9日)の速夜法要後、午後2時50分から本願寺総御堂において親鸞聖人750回大  
遠忌についてのご消息発布式が行なわれ、ご門主が親読され、不二  
川総長が決意表明を行ないました。



ご消息発布に続き、同日午後4時30分よりは、親鸞聖人750回大  
遠忌法要を内外に向けて知らせる法要高札の立札式が、高札の設置  
された阿弥陀堂門横で行われました。

随泉寺でも、1月14日～15日と御正忌報  
恩講を勤めさせていただきました。



## ☆ 第45回仏婦講座

2月14日・15日と第45回仏婦講座を開催します。15日  
の朝席は物故会員の追悼法要を勤めます。今年は7名の方がお浄土に還られました。  
いづれもなつかしい方々です。生前を偲びながら大切に勤めさせていただきますよ  
う。

- 1井村 洋子 62才 平成16年4月5日 2臼井 節子 98才 平成16年6月28日
- 3渡辺 千代子 83才 平成16年9月8日 4大森 トシ子 68才 平成16年11月9日
- 5植木 富江 86才 平成16年11月14日 6満岡 トシエ 96才 平成16年11月16日
- 7古川 テルノ 90才 平成16年12月20日

## ☆聴聞表

新年互礼会のとき、今年は何回ぐらいお寺に参れますかと聞いて回りました。  
12回の法座のうち10回ぐらい参りますとか、半分ぐらい参りますとか、色々な  
反応がありました。その中でできる限りお寺の法座には参りますという人が何人か  
おられました。1年でお寺の法座は35回あります。それなら出席表を作ればよい  
という意見が出ました。それが励みになれば、楽しみで参れます。面白い考えです。  
早速実行することにしました。2月から出席表を作ります。

## ☆御礼

- 永代経懇志 金 拾萬円 満岡 征治殿 故 満岡 トシ様 特別永代経志として
- 門信徒会へ 金 拾萬円 鎌田 不動殿 叙勲記念として
- 婦人部へ 金 拾萬円 鎌田 不動殿 叙勲記念として

# 思いあがった驕慢の私 その私を思いあがりぐるみ 支えてくれるもの 本願

カレンダー1月号 東井 義雄

ある町の老人大学から招かれて、バスの乗り場まで六キロほどの道を、自転車で急いでいるときであった。毛虫が一生懸命道を横断しようとしているのを、危うく踏みしめてしまいそうになったのをかろうじてよけて、ペダルを踏み急ごうとすると、その向こうにも、そのもうひとつ向こうにも、モゴモゴ、モゴモゴ、一生懸命横断中である。

いなか県道であるとはいえ、車がひっきりなしに通っているのに、危ないじゃないか、道の向こうに何があるのか、と心の中でつぶやきながらふと向こうをみると、向こうからもこちらへ、モゴモゴ、モゴモゴ、渡ってくる。1匹じゃない。 その向こうにも、そのまた向こうにも……。

それごらん、向こうへ渡って見たって、やっぱり、こちらと同じこと、その証拠に、ほら、向こうからもこちらへやってくるじゃないか、どんなにもがいてみても、あせってみても、毛虫は毛虫、毛虫の境界から逃れることはできないんだぞ、と、自転車のペダルを踏みながら胸の中でつぶやいたとたん私はハットとした。それは、毛虫のことではなくて、私のことではないか、と気付いたからである。

六十二年間、自転車のタイヤに踏みしかれもせず、このヒョロンヒョロンの私が、一生懸命生きてきた。が、一生懸命、歩いても歩いても私は私、ちっともラチがあいていないじゃないか、ヒョロンヒョロンの、愚かな貧しい私から逃れることはできていないじゃないか、毛虫も変わらないじゃないかと、私自身に呼びかけずにおれなくなってしまった。

うまれて、六十二年、怠けて生きたとは思わない。貧しさの中で、モゴモゴ、モゴモゴ、ひたむきに生きてきた。だが、待ちかまえているのが「老苦」である。

年金を、ふやしてもらったところで、医療費をただにしてもらったところで、立派な老人センターをつくってもらったところで、どんな豪華な養老院をつくってもらったところで、老人は老人、「労苦」は、行っても行っても、肉の落ちてしまった肩に、くいこんでくるばかり。元気な、若い者でもおそらく背負いぬくことはできないだろうと思われるような「労苦」を、ヒョロンヒョロンの体で、最期の日まで、背負って生きねばならないのだ、と気がついた。毛虫のことどころではないぞ、と思われてきた。地獄へペダルをみ急いでいる自分を思うと、やりきれなくなってきた。が、

そのとたん、パッと光を感じた。「たとい罪業は深重なりとも」「かならず」と、いう「願い」の中の私に目覚めさせてもらうことができた。

「あきないをもし奉公をもせよ、獵すなごりをもせよ、かかるあきましき罪業にのみ、朝夕までいぬる我等ごときのいたずらものを、たすけんとちかいます」「願い」の中の私に目覚めさせてもらったのである。毛虫と、少しも変わるところのない私、しかし、愚かであるとはいえ、人間に生まれさせていただいたお陰で、「願い」の中に生かされている私に気付かせてもらえるしあわせを考えたとき、お念仏がとび出してくださった。

おかげも「願い」も忘れて、自転車のペダルを踏み急いでいる私。毛虫とちっとも変わらない境界で 毛虫とちっとも変わらない生き方をしている私のくせ 毛虫の愚かさをあざ笑っている 思いあがった驕慢の私 本願  
南無阿弥陀仏。

2月

## 幸せのどまんなかにいるのに 幸せが見えない

カレンダー2月号 東井 義雄

親と子、夫婦がそろって無事に 一日をすごすことができ、六百の子どもの上にも、二十四の教室の上にも、建物の上にも、事がなく一日が暮れたということ、それがどんなに、ただごとでないことであるかを、痛感させてもらうこの頃です。



## ★「帰敬式（おかみそり）」について

5月14日の隨泉寺開基400年の法要で帰敬式（おかみそり）を行います。

その締め切りが近づいてきました。2月15日の仏婦講座終了後本山に名簿を送る予定です。この機会にまだの方はぜひとも授式してください。またいつかと思っていると死んだときに名前がないということになります。

帰敬式（おかみそり）は私たちがまことの佛教徒になる第一歩として受ける儀式です。帰敬式を受けるということは、私達が佛さまの弟子となり、佛さまの教えを聞いて生きる者となることを明らかにすることです。つまり、これまで生きてきた自分とは違う、新しい自分が誕生することを意味します。死んでからもらう名前と誤解されている方もいますが、死んでからだと自分の法名がなんというのかわかりません。お寺まで申し込んでください。